芳野の

藤井竹外（文化四年一八〇七～慶応二年一八六六）

古陵の松柏『天風に吼ゆ』
眉雪の老僧『時に帚くことを輟め』

山寺『春を尋ぬれば春寂寥』
落花『深き処に南朝を説く』

【本文】

芳野

古陵松柏吼二天風一
眉雪老僧時輟レ帚

山寺尋レ春春寂寥
落花深處説二南朝一

【通釈】古い陵の松や柏は、吹きわたるつむじ風に、はげしい音をたてている。わたくしはこの山の寺院の春の景色を尋ねて来たのであったが、境内には春を探る人の影もなく、ひっそりとしてまことにものさびしい。ただ、真っ白い眉の老僧がひとり、庭を掃くその手をとめて、散りしきる花びらの中で、南朝について説ききかせてくれるのである。